

美しいむらづくりネット

No. 10 (平成23年3月22日) 馬瀬地方自然公園づくり委員会

TEL 0576-47-2111



メンバーの再編です

このほど馬瀬地方自然公園づくり委員会メンバーが、平成23年度に向けて新たに再編されることになりました。委員会メンバー募集中です。この会は、毎年メンバーを募集して会活動の継続と新しい力を会に取り込むために、この時期に募集するシステムになっています。新たに会に加わって活動を希望される方の応募をお願いします。また、これまで委員として活動し、今回、会を退く方々には長年のご苦勞に感謝します。この1年間は地域内を散策できるウォーキングコースの設定、鮎料理をはじめとする地域の特産品の開発・販売拡大、地域の情報発信を中心に、新たなホームページの開設、むらづくりネット発行、ポスター、パンフレットを作成しました。平成23年度の地方自然公園づくり委員会の活動予定は、●日本で最も美しい村連合事業活動、●馬瀬地方自然公園維持、整備及び地域づくり事業、●馬瀬地方自然公園づくり5カ年計画に基づく事業、としています。少しわかりにくい項目ばかりですが、下呂市合併以来、地域が主体となった活動を展開する役割を担おうという思いがこの委員会に託されています。

深刻な震災被害

11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源とするマグニチュード(M)9.0の巨大地震がありました。被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。この東日本を直撃した巨大地震の被害は、時間の経過



守れるか美しい海からの夜景(横浜港にて)

とともに大きくなっています。死者・行方不明者合わせると2万人を超えることが明らかとなり、大きな被災地の写真が占める新聞紙面や、繰り返し報道される被災状況を報道するテレビには、目をそむけたくないような惨状が映し出されています。余震が続くなかで、避難生活を余儀なくされる40万人を超える現地の人々の心は計り知れないものでしょう。世界最大級の衝撃波と津波は多くの人命と家屋等の財産を一度に呑み込んでしまいました。加えて福島第一原発事故は、深刻な危機状態になって多くの人を不安に陥れました。東京消防庁や自衛隊の関係者が必死の努力で最悪な危機を免れるために、紆余曲折しながら努力が続けられています。放射線に汚染された農産物や牛乳、水など、広い地域の環境汚染など、まだまだ予断を許さない状況が続くことが考えられます。こうした状況の中で、私たちは何ができるか。一刻も早くこの国難を乗り切るために、私たち一人ひとりが行動を起こさなければならないと思います。

シリーズ「こんにちは、お店紹介」 「ケイチャンの元祖・うめもと」

今やB級ぐるめで有名になった郷土料理ケイチャンの元祖店「うめもと」を紹介します。実は正真正銘の元祖がここです。昭和43年開業、そして現在の店舗新築は50年6月、店主二村純次さんは、当時、飛騨萩原駅前のアルプスタクシーに勤務の傍ら奥さんの久子さんと鶏肉を味噌で味付けした昼食をメインにした小さなお店を営んでいました。これが「ケイチャン」誕生だったのです。当時、牛や山羊のほか養鶏をしており、この肉を使って料理を始めました。これぞ地産地消の郷土料理でした。時まさに高度経済成長突入期で、馬瀬村といえども小学校の新築工事はじめ多くの公共工事が進み、村外から建設にかかわる多くの人たち、釣り客等がお昼時にはケイチャン目当てに詰めかけ、行列ができるほどにぎやかでした。ケイチャンとは、豚の内臓のトンちゃんに対し鶏肉なので「ケイチャン」の命名だそうです。一方、純ちゃんは、村内でも水田の圃場整理を進めることとなり、その中心的な役割を担った小林喜久寿さん（中切）らとともに圃場



素敵な店舗前の店主の純ちゃん
整備事業を推進。これと引き換えに米から

トマト生産への義務転作を余儀なくされ、進んで未経験のトマト転作に取り組むなど、馬瀬地域の農業の転換期を担ってきました。現在は、地域や近隣町でもケイチャン製造業が一大産業に発展し、地域外から材料を移入し製品化して他地域へ販売する後発のケイチャン業者ではなく、地元の味、郷土料理に固執するケイチャンの店「うめもと」でありたいと、強い郷土愛を熱く語っていただきました。食堂・喫茶のほかに宴会・民宿もOK（取材 naka）

建設進む「馬瀬いきいき倶楽部」



写真は、旧惣島小学校跡に建設が進む、仮称「馬瀬いきいき倶楽部」です。認知症対応型共同生活介護グループホーム、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護の2本立て。事業主体は、高佳会（岐阜市）オープン予定は本年6月の模様です。

編集後記

悲劇から10日が過ぎ、悲しく、悔しく、苦しい避難生活の震災地に、無情の雪の予報。やり切れない気持ちが襲います。全てを押し流してしまった津波に加えて原発の恐怖。広範な地域に及ぶ環境悪化。決して豊かとはいえなかった農村・漁村で、住民が築いてきた僅かばかりの富「ふるさと」。それをも失ってしまったとは言いたくありません。一日も早い復興を願っています。今回で、編集子として最後です。ありがとうございました。（nakagawa）